

事後調査の結果

調査項目 : 生物・生態系

予測した事項 : 陸上動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度、生息（育）環境の変化の内容及びその程度、陸水域生態系の変化の内容及びその程度

1 調査地域

陸上動物の状況については対象事業実施区域及びその周辺とし、水生生物の状況については対象事業実施区域に隣接する根川及び多摩川の合流点付近とした。

生息（育）環境の状況及び陸水域生態系の状況については、陸上動物及び水生生物と同じとした。

2 調査手法

(1) 調査事項

① 予測した事項

ア. 生物

陸上動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度、生息（育）環境の変化の内容及びその程度

イ. 生態系

陸水域生態系の変化の内容及びその程度

② 予測条件の状況

ア. 建設作業騒音の状況

イ. 放流先河川（多摩川・根川）の水質（SS）、流量

③ 環境保全のための措置の実施状況

(2) 調査時点

① 予測した事項

ア. 陸上動物の状況

建設作業の騒音が最大となると想定される時期（評価書：平成30年7月想定、事後調査：平成31年1月実施）を含む1年間（平成30年4月～平成31年3月：土木工事（基礎工事）及び建築工事（躯体工事・煙突設置工事）実施時）とし、表7-1に示すとおりである。

表 7-1 調査の概要

調査項目	調査時期	調査日
哺乳類	春季	平成 30 年 5 月 10 日～11 日
	夏季	平成 30 年 7 月 30 日
	秋季	平成 30 年 10 月 16 日～17 日
	冬季	平成 31 年 1 月 15 日
鳥類	春季	平成 30 年 5 月 11 日
	夏季	平成 30 年 7 月 31 日
	秋季	平成 30 年 10 月 16 日
	冬季	平成 31 年 1 月 15 日
は虫類・両生類	早春季	平成 31 年 3 月 11 日
	春季	平成 30 年 5 月 9 日
	夏季	平成 30 年 7 月 31 日
	秋季	平成 30 年 10 月 18 日
昆虫類	春季	平成 30 年 5 月 28 日～29 日
	夏季	平成 30 年 7 月 30 日～31 日
	秋季	平成 30 年 10 月 16 日～17 日

イ. 水生生物の状況

ディープウェル工法による地下水排水の放流のある期間を含む1年間（平成30年3月～平成31年2月）とし、表7-2に示す時期とした。

表 7-2 調査の概要

調査項目	調査時期	調査日
大型水生植物、 水生生物（魚類）	春季	平成 30 年 5 月 9 日～11 日
	夏季	平成 30 年 8 月 20 日～21 日
	秋季	平成 30 年 10 月 16 日～17 日
付着生物（付着藻類）、 水生生物（底生動物）	春季	平成 30 年 5 月 9 日～11 日
	夏季	平成 30 年 8 月 20 日～21 日
	秋季	平成 30 年 10 月 16 日～17 日
	冬季	平成 31 年 1 月 15 日

ウ. 生息（生育）環境

「陸上動物の状況」及び「水生生物の状況」の調査期間中として、植生断面調査及び植生群落調査（植生図）を表7-3に示す時期とした。

表 7-3 調査の概要

調査項目	調査日
陸上動物（植生断面）	平成 30 年 11 月 19 日
植生群落（植生図）	平成 30 年 11 月 20 日～21 日

②予測条件の状況

ア. 建設作業騒音の状況

建設作業の騒音が最大となると想定される時期（土木工事（基礎工事）及び建築工事（躯体工事・煙突設置工事）実施時とした。

イ. 放流先河川（多摩川・根川）の水質（SS）、流量

ディープウェル工法による地下水排水の放流のある期間を含む1年間（平成30年3月～平成31年2月）とした。

③ 環境保全のための措置の実施状況

予測した事項と同じ時期とした。

(3) 調査地点

① 予測した事項

ア. 陸上動物の状況

調査地点及び踏査ルートは、図7-1～図7-4（133～140ページ）に示すとおりである。

イ. 水生生物の状況

調査地点は、図7-5（141ページ）に示すとおりである。

ウ. 生息（生育）環境

調査地点は、図7-6～図7-7（142～143ページ）に示すとおりである。

② 予測条件の状況

ア. 建設作業騒音の状況

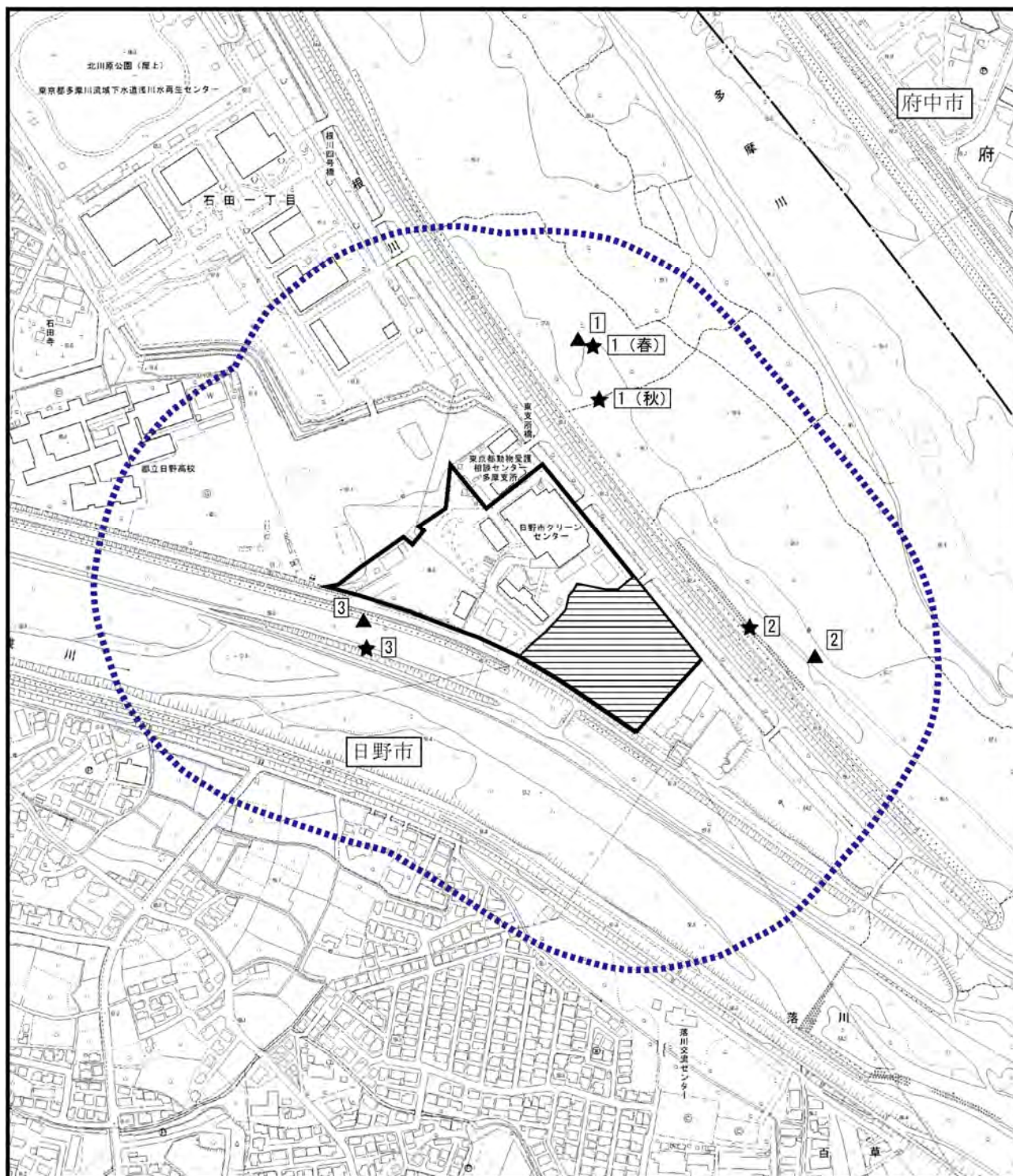
対象事業実施区域敷地境界とした。

イ. 放流先河川（多摩川・根川）の水質（SS）、流量

対象事業実施区域に隣接する根川及び多摩川の合流点付近とした。

③ 環境保全のための措置の実施状況

対象事業実施区域内とした。



凡 例

□ : 対象事業実施区域

▨ : 建設予定地

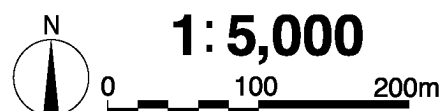
— : 市界

⋯ : 調査範囲

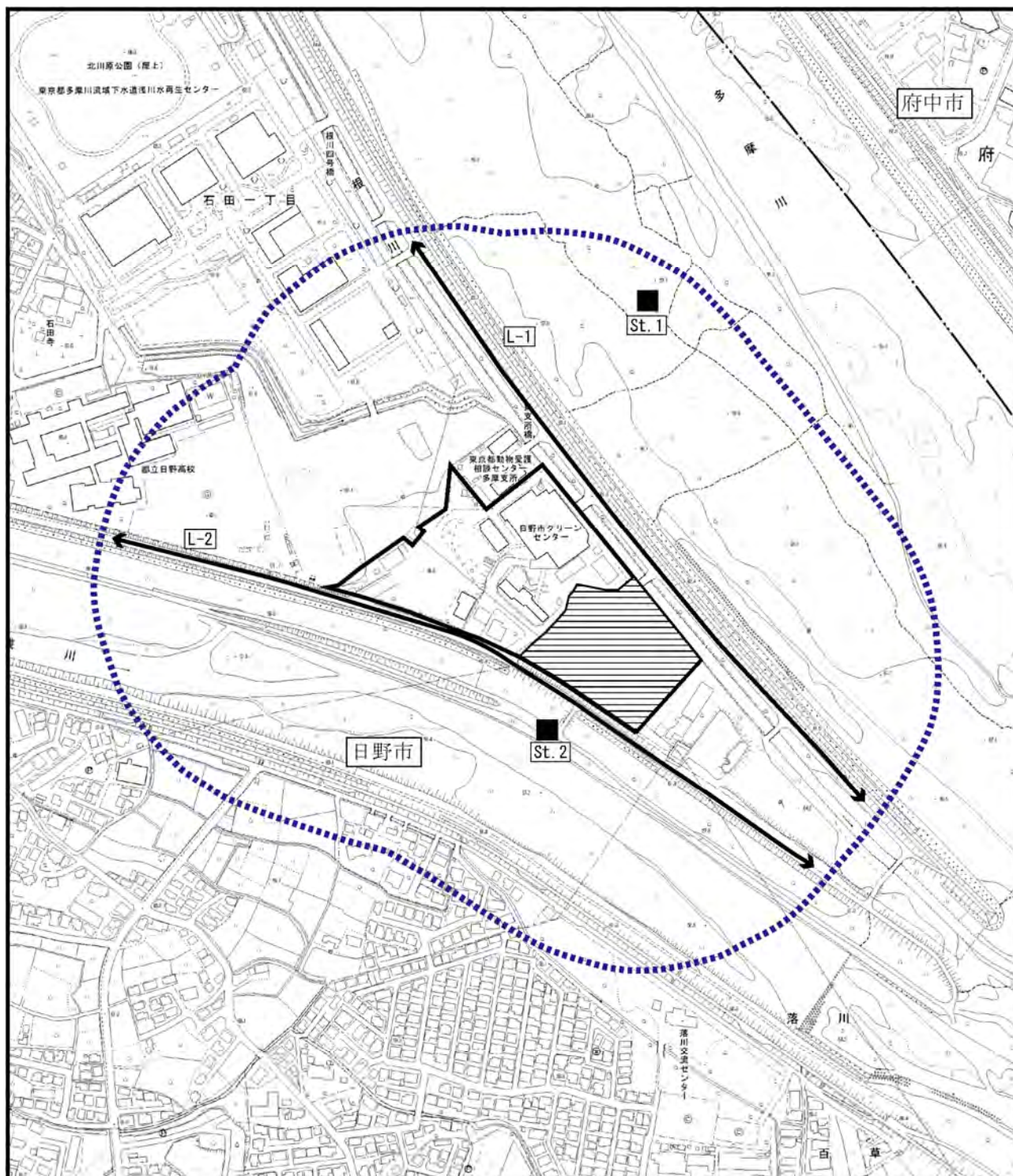
▲ : 小型哺乳類トラップ(1~3)

★ : 無人撮影地点(1~3)

図 7-1 (1) 哺乳類調査地点



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



凡 例

□ : 対象事業実施区域

▨ : 建設予定地

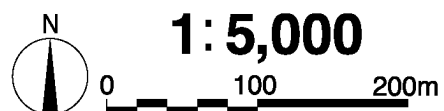
— : 市界

⋯ : 調査範囲

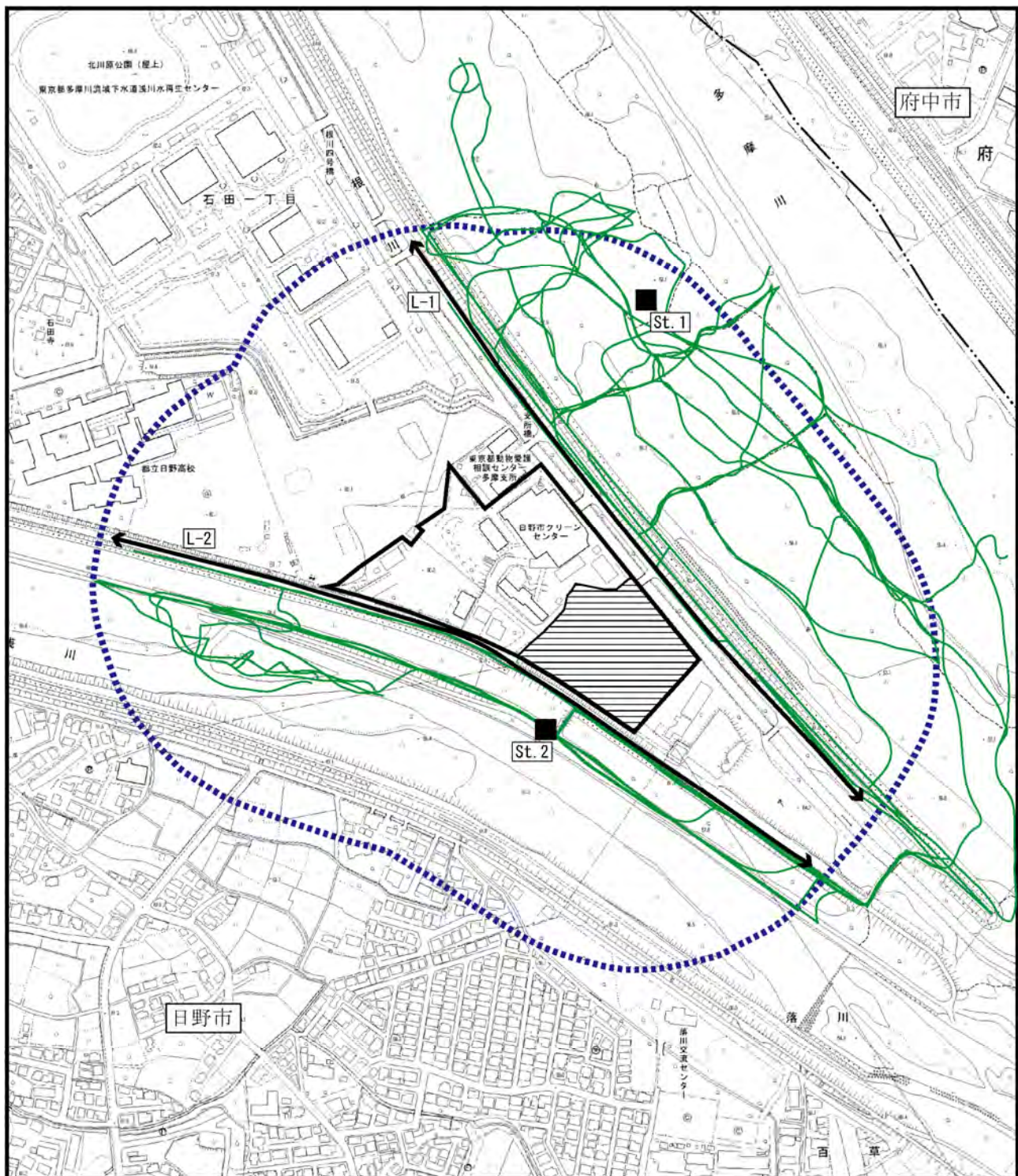
↔ : ラインセンサスルート (L1~2)

■ : 定点観察地点 (St. 1~2)

図 7-2(1) 鳥類調査地点



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



凡 例

□ : 対象事業実施区域

▨ : 建設予定地

--- : 市界

⋯ : 調査範囲

— : 踏査ルート

↔ : ラインセンサスルート (L1~2)

■ : 定点観察地点 (St. 1~2)

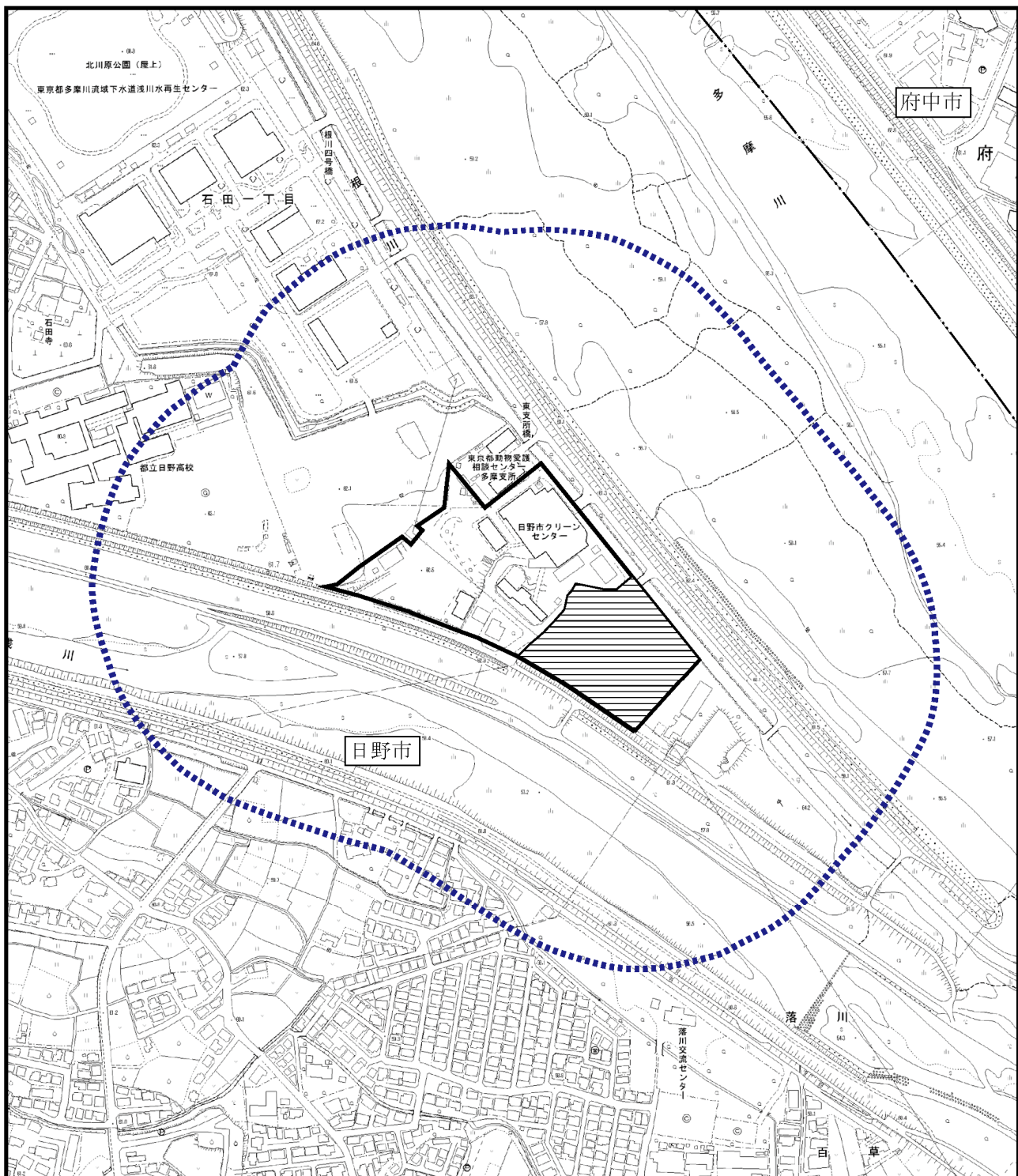
図 7-2 (2) 鳥類調査地点 (踏査ルート)



1:5,000

0 100 200m

この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 建設予定地
- : 市界
- : 調査範囲

図 7-3(1) は虫類・両生類調査地点



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



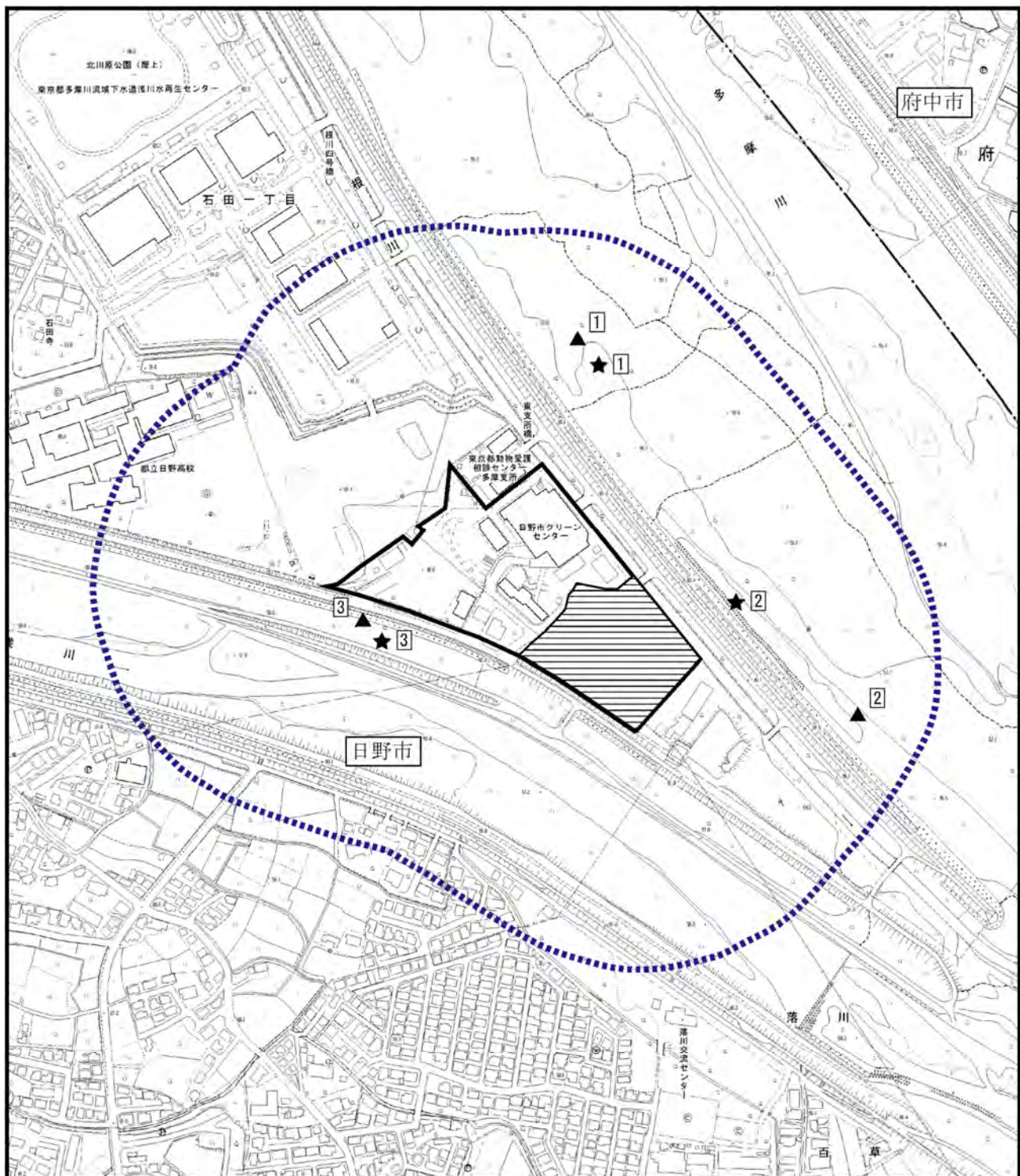
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 建設予定地
- : 市界
- : 調査範囲
- : 踏査ルート

図 7-3 (2) は虫類・両生類調査地点(踏査ルート)



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



凡 例

□ : 対象事業実施区域

▨ : 建設予定地

— : 市界

⋯ : 調査範囲

▲ : ベイトトラップ(1~3)

★ : ライトトラップ(1~3)

図 7-4(1) 昆虫類調査地点



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



凡 例

□ : 対象事業実施区域

▨ : 建設予定地

--- : 市界

⋯ : 調査範囲

— : 踏査ルート

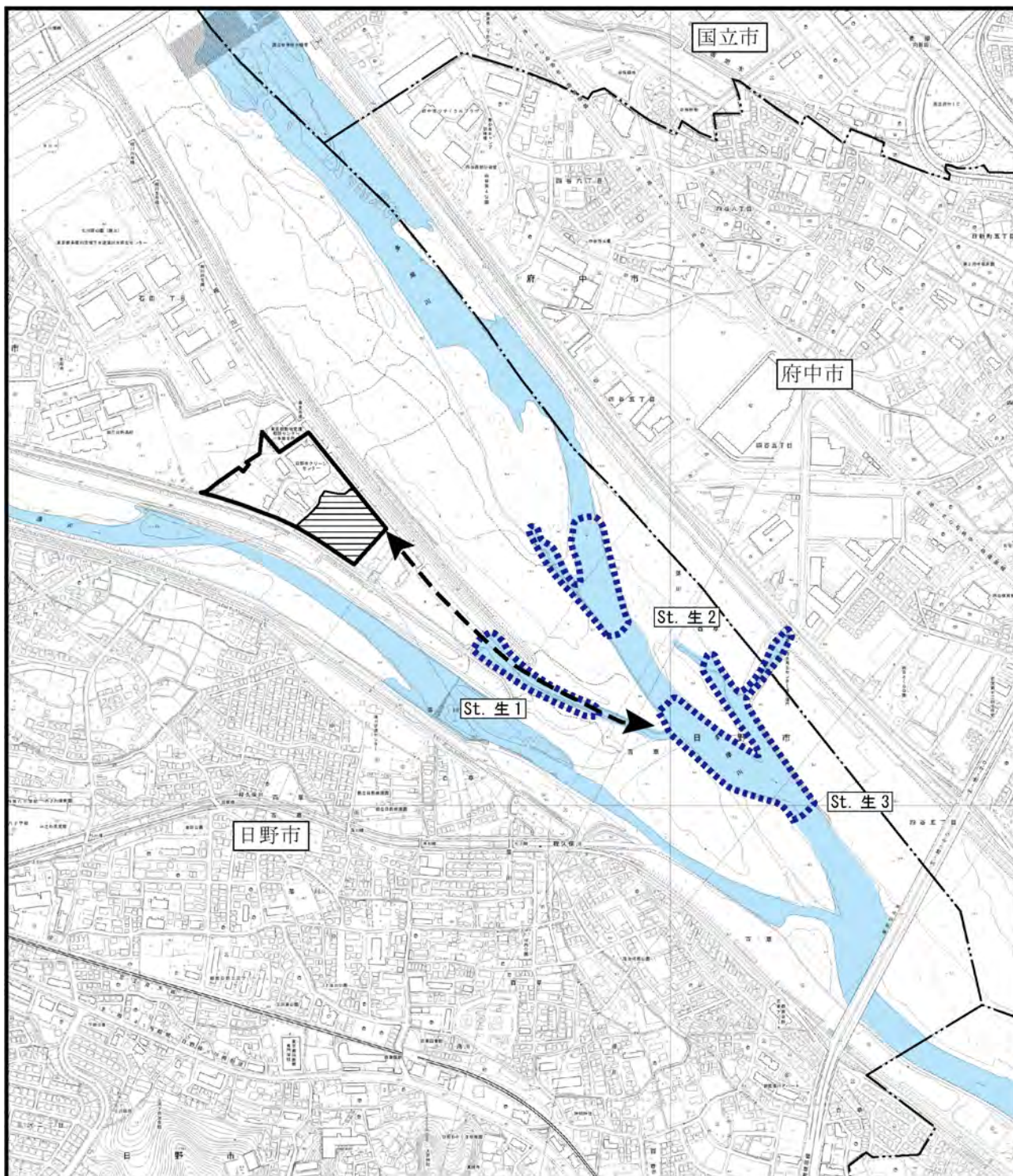
▲ : ベイトトラップ(1~3)

★ : ライトトラップ(1~3)

図 7-4(2) 昆虫類調査地点(踏査ルート)



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



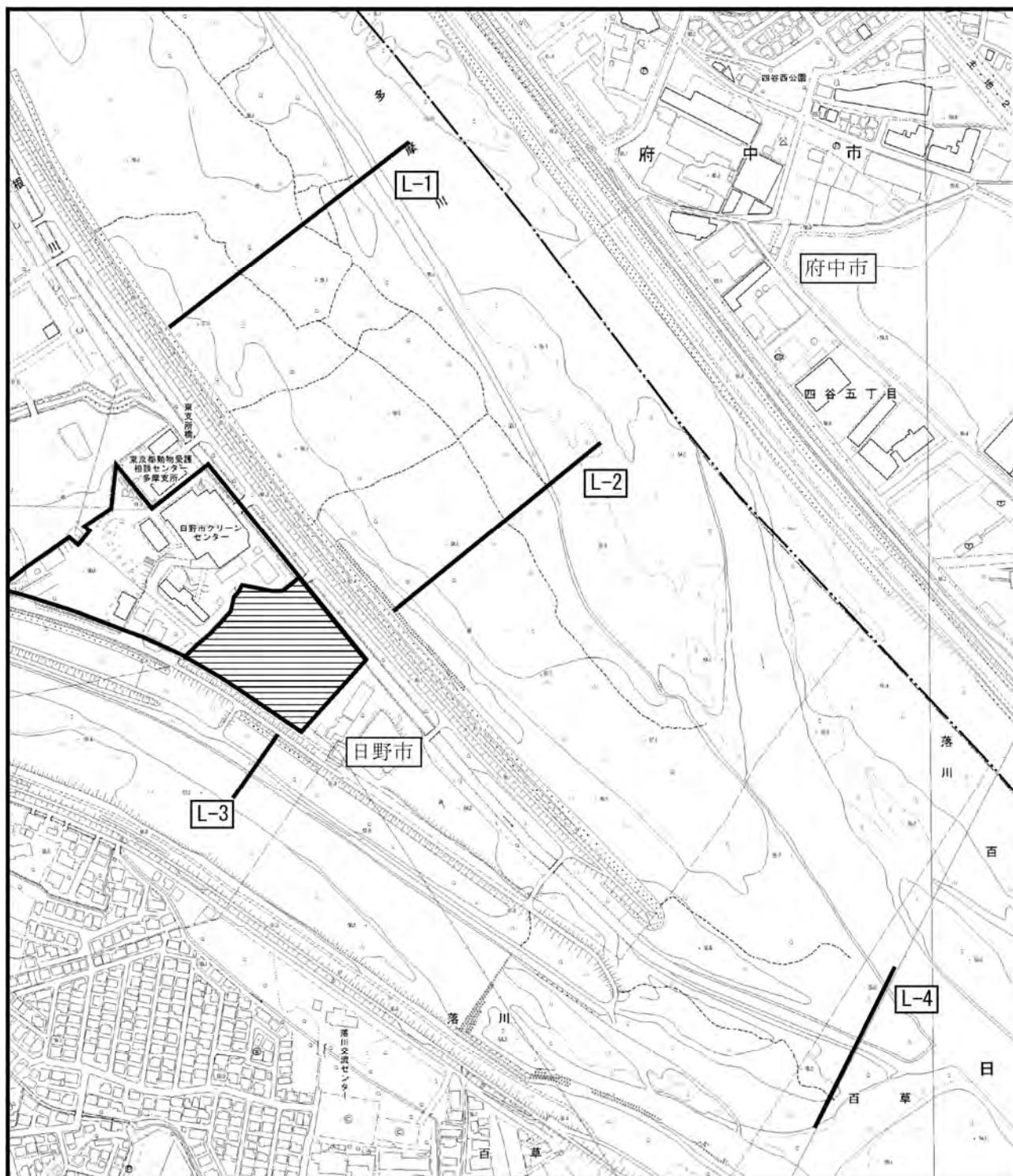
凡 例

- | | |
|------------|--------------------|
| : 対象事業実施区域 | : 魚類・底生動物・付着藻類調査範囲 |
| : 建設予定地 | : 水域 |
| : 市界 | : 大型水生植物調査範囲 |

図 7-5 水生生物調査地点



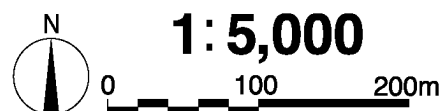
この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



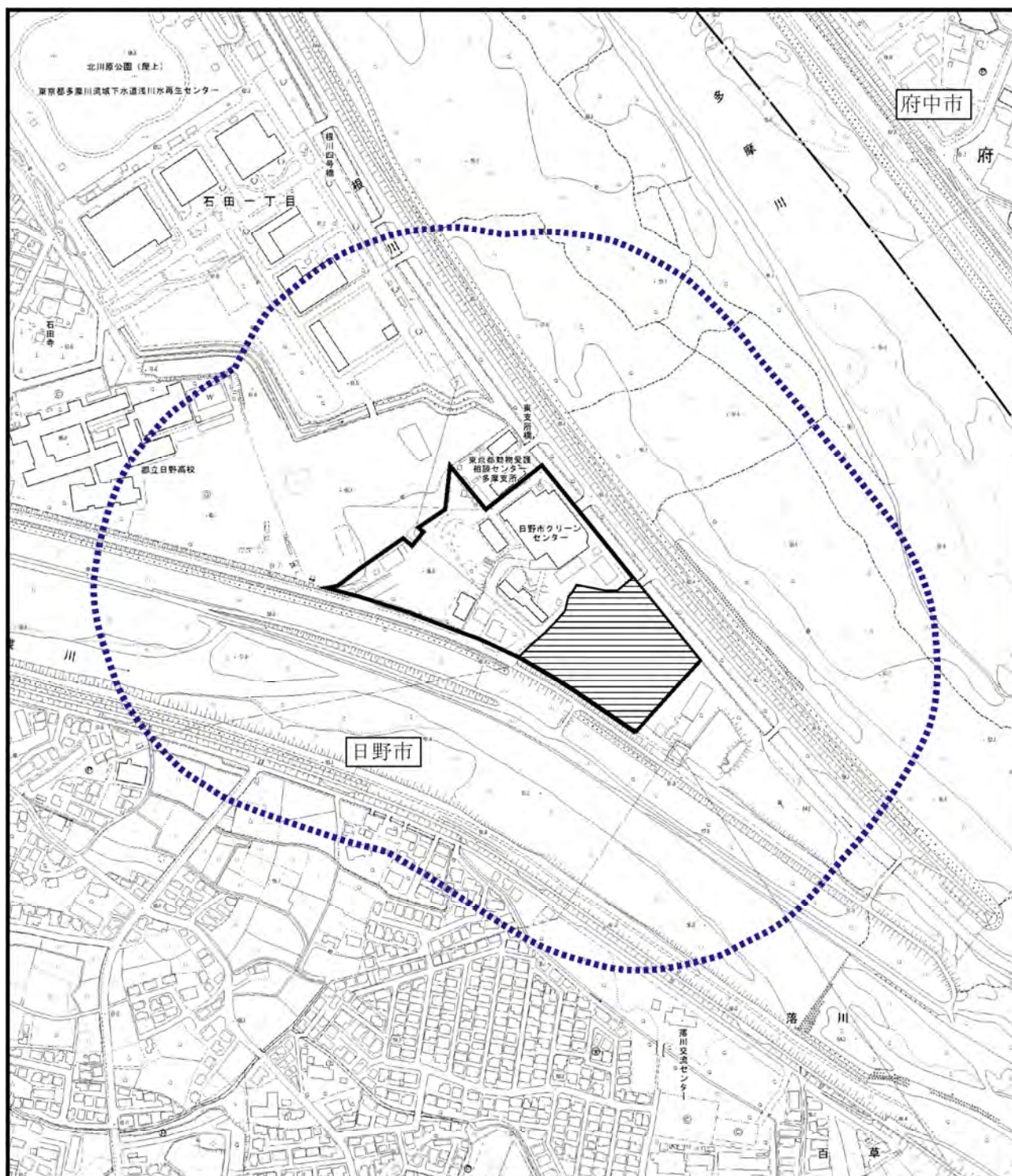
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 建設予定地
- : 市界
- : 植生断面 (L-1~4)

図 7-6 陸上動物(植生断面)調査地点



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。



凡 例

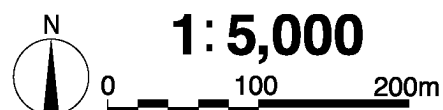
□ : 対象事業実施区域

▨ : 建設予定地

--- : 市界

⋯ : 調査範囲

図 7-7 植物群落(植生図)調査地点



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図（平成27年度DVD版）を使用したものである。

(4) 調査方法

① 予測した事項

ア. 陸上動物の状況

ア) 哺乳類

- ・ フィールドサイン法（夏季に夜間調査を実施）
- ・ 無人撮影法（春季調査時）
- ・ トラップ法

イ) 鳥類

- ・ ラインセンサス法
- ・ 定点観察法
- ・ 任意観察法

ウ) は虫類・両生類

- ・ 任意観察法（春季に夜間調査を実施）

エ) 昆虫類

- ・ 任意採集法
- ・ ライトトラップ法
- ・ ベイトトラップ法

イ. 水生生物の状況

ア) 大型水生植物

- ・ 現地踏査

イ) 付着生物（付着藻類）

- ・ コドラート調査法

ウ) 水生生物（魚類）

- ・ 任意採集法

エ) 水生生物（底生動物）

- ・ 任意採集法

ウ. 生息（育）環境

ア) 陸上動物（植生断面）

植生断面調査により、調査地域の動物と植物群落や土地利用、地形等との環境の関連について整理した。

イ) 水生生物

水生生物の調査方法に準じた。

エ. 陸水域生態系の状況

生物の調査結果を環境類型区分及びこれらと生物の関係、上位性・典型性・特殊性の視点から、生態系を特徴付ける生物種・群集に着目して整理した。

② 予測条件の状況

現地調査及び工事日報等関連資料の整理によった。

③ 環境保全のための措置の実施状況

現地調査及び工事日報等関連資料の整理によった。